

目的 男性のきものにとって、裾下の位置は袖端美の意から重要なポイントである。元来裾下法は標準寸法が習慣的に伝えられ、体格を合はせた増減はあまり普及していなかったように思われるが漸次寸法の割り出し方も採用されるようになった。しかし裾下の位置については従来のとおりであるが、必然位置を定むべきである。今回身長と裾下の位置について検討したので報告する。

方法 右裁書おのりかた下の既製品の裾下の位置について調べることにした。本学学生の父兄を対象に調査用紙を配布し、現在着用しているきもの裾下の位置を調査。このに調査の目安と思われうる着丈、袖丈、袖幅、袖下等の寸法から身長と裾下の位置の割り出し方を袖の位置と関連させて検討した。

結果 従来の右裁書おのりでは、着丈や袖下については身長に対しての割り出し方が既成のままであるのに対し、裾下の位置は帯の下に置けることが大切であるとしているがほとんど身長に関係なく決められていた。アンケートの結果も、標準寸法としての後のcm. 前5cm. を使用している人が大半を占め、身長の短い人は裾下が帯の中に入ることが、身長の高い人は裾下の下に入ることが多かった。この調査から裾下の位置は、身長の前5cm. 前後に調査があり、袖下、袖先、帯巾より計算して身長×0.12を算出すればよいと推定される。なおこの割り出し方を基としておのりの若干の着用度調査も実施して今後の研究に資することになった。